

特集

日系企業が取り組む、 中国での情報セキュリティ

データ潮流

NRIオリジナル調査データから
世の中の動きをとらえます。

- 海外企業買収の目的は、
技術や商品を獲得するため

注目トピック

NRIが注目する話題や事象について
解説します。

- 「巨大市場 MENA」
——中東・北アフリカの可能性
- 「環境ビジネス成功の鍵」
——川下領域への取り組み

NRIからのお知らせ

事業

- ユーザーインターフェース
技術の進展
2014年度までを予測

ソリューション

- 「みんなの口座管理」
セブン銀行でサービスをスタート
- スキー場とタイアップした
携帯サイト開設
「全力案内!」が冬のレジャー情報を提供

中国でのセキュリティ意識は日本とは異なるようで、中国に拠点を置く日系企業は、現地での情報セキュリティ対策に頭を痛めています。2007年から中国現地企業の情報セキュリティの状況を調査してきた野村総合研究所(NRI)北京の長谷川剛が、最新の状況について語ります。

NRI北京は中国に拠点を置く日系企業の情報セキュリティ対策を支援しています。海外拠点では、スタッフが少ないことが多く、情報セキュリティにまでとても手が回らない状況です。しかし、中国でもウィルスや情報漏洩の脅威が高まっており、多くの日系企業は対策に頭を痛めています。

そもそも、中国における情報セキュリティの現状はどうなっているのでしょうか。理解するには、今から10年ほど前の日本を思い出してもらおうとよいでしょう。

当時の日本では、人々がようやくパソコンやメールを使い始め、ウィルスも騒がれだしていました。

その状況に今の中国は似ています。個人情報保護法をきっかけに意識が高まった日本と異なり、現在の中国では、個人情報の重要性、他人に渡ることの危



長谷川 剛 はせがわ・ごう

NRIセキュアテクノロジーズにて、企業の情報セキュリティ対策のコンサルティング、セキュリティポリシー策定などに従事。2007年より中国の情報セキュリティについて調査を始め、2009年4月にNRI北京の上海支店に赴任。日系企業の情報セキュリティ対策を支援している。

険性はまだまだあまり意識されていません。ただ、10年前の日本と違って現在の中国には、日本と同様に十分なITインフラ環境が整っています。現地でのセキュリティ対策は、意識とIT環境の間にギャップがある中国の現状を踏まえて、立てる必要があります。→

対策ツールを導入し、活用を徹底する

われわれが2009年7月に実施したアンケート調査には、中国の様相が表れていると思います。例えば、この1年間で中国に拠点を置く日系企業に発生した情報セキュリティ被害のトップは、ウィルスやワームの感染でした。その経路は、ウェブサイトへのアクセスや、外部から持ち込んだパソコンやメディア、受信メールなどが目立っています。

対策のポイントは情報の出入り口

中国では、会社のパソコンに対する社員の使い方意識も日本とは異なります。現地社員が与えられたパソコンから、警戒心

を持たずに多数のサイトにアクセスし、いつのまにか感染したウィルスを社内にばらまいていたなどということも起きています。

それでは、中国現地ならではの対策として、何をすればよいのでしょうか。すぐにできることとして、私は教育によるルールの徹底が重要だと考えています。

ポイントは、情報の出入り口——パソコンやネットワークの対策です。適切なウィルス対策ソフト利用の監視・診断やウェブへのアクセスを制限するフィルタリングソフトなどのツールを導入して利用を強制する。勝手に停止、またはアンインストールさせない。こうした明快なルール

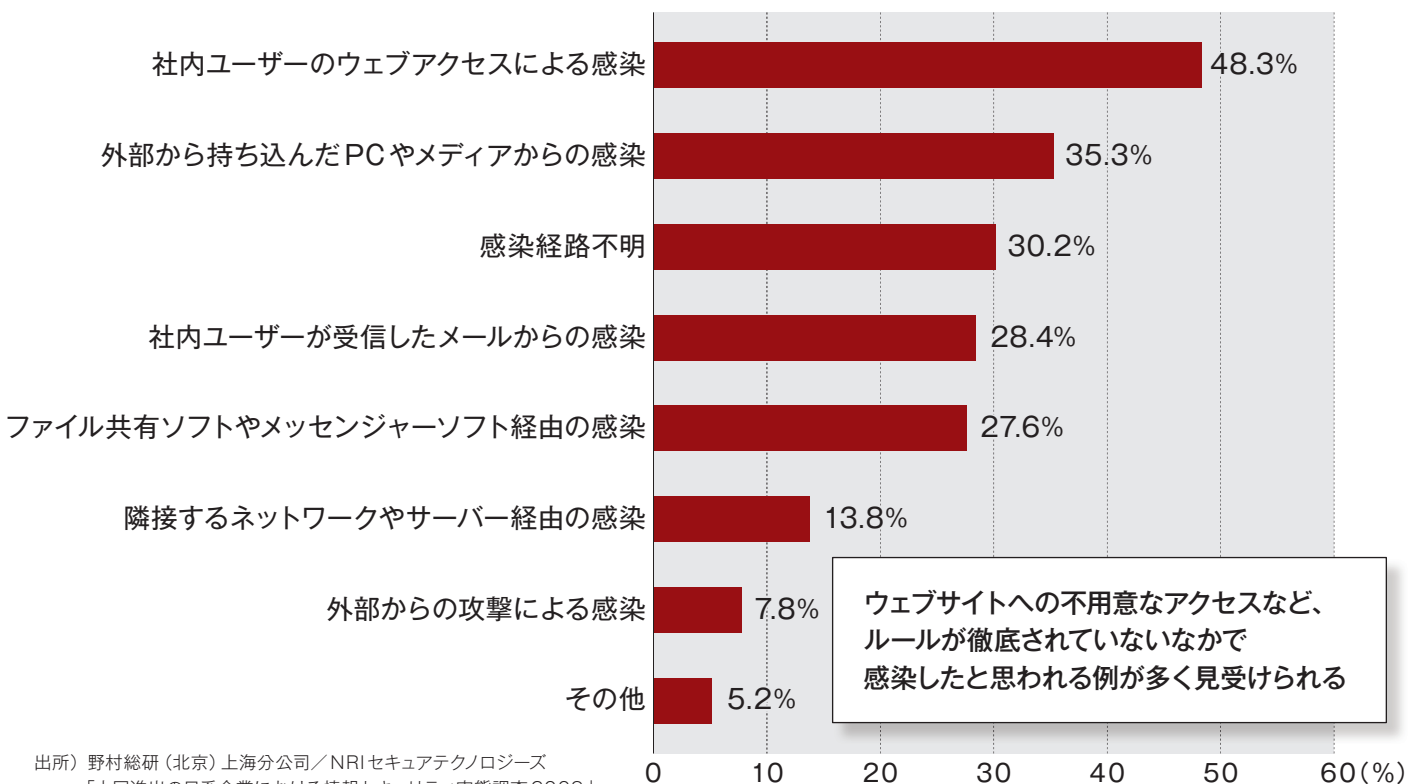
を示して徹底させることが必要です。

社内を巻き込んで前向きに取り組む

情報セキュリティというと、固苦しく考えがちです。しかし、ルールの徹底が、例えば、会社の成長や社員のスキル向上につながるなどメリットを示したり、褒賞の仕組みを用意したりしながら、全社で前向きに取り組んでもらえたらと思います。

ITやネットワークの世界において、日本と中国の関係は今後も強まっていくでしょう。だからこそ情報セキュリティ対策も、一層重要になるのです。

ウィルスやワームへの感染経路 (N=116)



出所) 野村総研(北京)上海分公司/NRIセキュアテクノロジーズ
「中国進出の日系企業における情報セキュリティ実態調査2009」
2009年7月~9月に実施